

(Lonely Night Gathering)

やのなーい夜の句会報 第238号 (2025.9.7-2025.9.14)

- ◆ 参加者: クイスク、紺野水辺、空野のみき、やぶ、森鶴、しまね
いへん、笛地静恵、千葉羅点、鈴木正口、くわばひこ、天然石
アクセサリーakis、鈴木雀、ねるの、じへ、しのむら、西脇祥貴、
秋月祐一、fui、西沢葉火、雷(ひこ)、汐田大輝、宮坂義哲、涼
片羽雲雀、季川詩音、山羊の頭、石川聰、蔭一郎、ゆうたま、
石原としき、よしひー、akao、岡村知昭、山田真佐明、しん
じか、リカシヒ、ひじゆみ、霧雨魔理沙、塩の司厨長、ゆりの
はな」、ひじゆみ、水の眠り、青海波、まえけい、ひろいだ、
不思議な話のアイ」、高田つき、何となく短歌、雪平千星、
crazylover、涼闇、saku、守宮、都まなび、todoro、なむわい、
もりまつり、わたなべじゅん」、問答無用の仕事師に
LongingLove です、ShunSaito、月波与生 (五八名)

◆川柳・俳句

- 鳥籠にピアノを置いてほしいです 空野のみき
シロップを羊の群れにかけるだけ 空野のみき
道化師の瞳の星に住んでいる 空野のみき
絵本での私の肉はピンク?ブルー? クイスク
かさぶたのにおい味わうコンシェルジユ クイスク
死の陰に座す夜汽車溶け去る クイスク
縁側に濡れたこけしが並び立つ クイスク
直さずに読む鏡文字秋の夜 紺野水辺
ねずみねじ小指のとじかないギター 都まなび
だるまさんがころんだ 脳に風穴 アイン
やわらかい墓になつてくルツキズム アイン
お手紙といひとつだけ顔置いておく 蔭一郎

山頂にアップルパイが落ちてくる 蔭一郎

空気から剥がれてしまう白木槿 蔭一郎

扇風機ひらがなひとつしか言えぬ 季川詩音

おっさんのおでこが示すバーコード 季川詩音

なんとなく路面電車にいる母 季川詩音

米屋です米屋ですから桃を剥く 岡村知昭

品行の悪いゼリーが脇に来る 汝田大輝

歴代の春樹の頸を鉢に挿す 汝田大輝

サンリオの時価総額が天城越え 汝田大輝

父の日は水中で息をする田中 汝田大輝

禿に塗るひまわり油 汝田大輝

歴史から学ぶゆりかご 汝田大輝

クラッチに挟まつたまま冬を越す 汝田大輝

ジコハサンするかしないか猫じやらし 秋月祐一

事もなしみたらし生活研究所 秋月祐一

おしなべてへそからしたが罪である 石川聰

西洋の過度に数学的な花 宮坂変哲

褒めるのもセクハラになる世界線 宮坂変哲

ガトリングガンに変身あけび食う 宮坂変哲

高原の霧やセロリの荷に積もる 鈴木正巳

仏壇の父母に絶やすぬ今年米 鈴木正巳

何度もみた絵葉書の今日の港みる 雷

倉庫に香水の残り香ある張り紙 雷

ひとつめの積み木をのせるところから suzume Suzuki

苗字だけ変えて中身は芋嵐 しまねこくん

端っこが一個欠けても碇星 しまねこくん

○これが生殺与奪の権をもつ リコシユ

*
学舎に夏の残り香花子さん やぶ
たましいを本のページへおきわすれ 篠地静恵

しじるむじろに泥田坊 笛地 静恵

笛地 静恵

千葉羅点

音楽かと思つてウサギになつた駅 热は敵 ぼくのCPUが壊れるからです

ペロボッコ

いいわけもなくとめどない ねるの いつ 背中腰レシピどおりに丸めてる しんども

五度撮るとほつれ出す中島みゆき

西脇祥貴

寂しさをあつめて速し時の波 fuu_ 歌を忘れたアカペラは

西沢葉火

逢つている盲導犬のせいにして 西沢葉火

祝勝会終えて未来が鳩になる ゆうたま

天候の予測外れて 大荷物 涼

恍惚と謝罪しながら腐る桃 よしひー!

独り居の秋刀魚綺麗に焼き上がる akao

花狩りておどるおなこの肉のシワ 山田真佐明

過呼吸のオルガンだつて来たらしい しんいち

雨が降る紅葉にノラに雨が降る ひいらぎ

球根を植えて豪雨を語り継ぐ 霧雨魔理沙

コレステローリングサンダース電気 塩の司厨長

四月馬鹿馬鹿は馬鹿です三鬼の忌 ゆりのはなこ

うしろむいてひとつだけ顔置いてきたよ ひろいなた。

九九の日や足りない物を買いに行く まどけい

耳たぶに三日月乗せて貴方へと 東こうろ

転がるか走るか速いほうで行く 涼閑

月食の星空見上げ癒される 涼

つぼみ会ライダーはみな六十年 souko 守宮

寂しさは春夏秋冬色違い なさわび

葉桜になる速度で愛したい もりまりー

*

ウイルスチェックする恋人の動画 月波与生

六人にひとりはネット川柳家 月波与生

◆ 短歌
袋からじの子が抱かれて寝るのだろうゲームセンター戦利
の遺品 水の眠り

*

まなかひにアルゲリッヂのやうな猫 秋はしづかに待ち焦
がれてた 森器

日々とはまるで、 不具合がそのままの、 未完成な階段だ。
天然石アクセサリーkiki's

命日をかさねる度に薄くなる柔らかくなる静かな怒り 片
羽雲雀

波の音耳の奥で満ち引きを 脳のなにかと共鳴してて 青
海波

食を待つことができずに寢室の月明かるくて伏せるしかな
く 何となく短歌

日々を埋める埋めて余白を無くしていくらしい思考を踏み
潰してく 雪平千星

戻らないたどり着いたら心地よく歪み音色と台風一過

crazy lover

「ハジやなかつたとリプライを消した指と私をどうか憎ん
で todoro.

◆詩・短文

太陽の元、歩き

背くことなく

暗闇の中、ひつそり

陽の目を見ずも

変わることなく歩く
時に振り返るが
立ち止まることなく
それが己れの道

歩き疲れた、なら休もう
誰も気にしちや、いないさ（山羊の頭）

そばにいても潮騒
電話ボックス、青い
砂糖水につけこむ
貝殻をしまう箱

指だけで泳ぎたい（高田つき）

◆作品評から

たましいを本のページへおきわすれ 箕地静恵
「とても良い内容だつたりすると、魂が引き込まれると
いうか、本の中に置いてきてしまったかのように憔悴しき
つてしまふときつてあると思います。（季川詩音）

苗字だけ変えて中身は莘風 しまねこくん

「離婚や、結婚して苗字が変わつても中身は変わらない。
確かにそうです。SUPER EIGHTの横山裕さんの言葉を思い出
しました。グループ名が変わると同時に、「グループ名変わ
つても何も変わらない。僕に関しては苗字も数回変わつ
た。」って。（季川詩音）

流れ星すつたもんだで白塗りで 江口ちかる
「以前の職場の先輩が「すつたもんだ」を多用する人で

自分が元でのトラブルも「すつたもんだあつて…」とか話していた。彼に平和な老後は訪れているだろうか。（月波与生）

ライダーはみな五十歳同窓会 *soko 守宮*

「仮面ライダーは1971年に誕生したので今年53周年。バイクを乗る人も高齢化が進んでいると聞く。750ライダーと言つても通じないので、「みな五十歳」に実感がこもる。」（月波与生）

何度もみた絵葉書の今日の港みる 雷

「何回も見たはずなのにまた今日も見る。何回も見たはずなのに、なんか少し感じ方が違う。色褪せとかそういうのを感じるのかもしません。（季川詩音）

歴史から学ぶゆりかご」 汐田大輝

「歴史から学ぶゆりかご」。歴史から学ぶことは多いです。狙つて用いた表現なのかはわかりませんが、「ゆりかご」というのを見て、「ゆりかごから墓場まで」という言葉を思い出しました。（季川詩音）

空気から剥がれてしまう白木槿 蔭一郎

「川柳として読む。木槿の花言葉には「纖細な美しさ」もある。確かに木槿の花びらには極上の縮緬のような独特の美しさがある。それを「空気から剥がれてしまう」としたクオリア（個人の主観的な質感）表現は卓抜で真似ができない。蔭一郎氏の独壇場。羨ましい。（石川聰）

過呼吸のオルガンだつて来たらしい しんいち

「オルガンは空気が流れでリードが振動して音が出る仕組み。空気を吸うために生まれたような楽器だ。だから過

呼吸になどならない印象。なのにオルガンが過呼吸という
グラし設定に柳味を感じます。語源は古代ギリシャ語
「organon (օργανον)」＝臓器の意もあるから、どこ
となく人の身体感覺にちかい語の響きがあるのもポイント
だとおもいます。過呼吸になつちやうオルガンは一種の
落ちこぼれ的存在にも読めますが、結五の「来たらしい」
という優しさを伴つたフレーズによつて心温まる救いがも
たらされる一句ですね。（石川聰）

端っこが一個欠けても碇星 しまねこくん

～カシオペア座の和名が碇星なんだって。五つの星を結
んで初めて碇になるから、一つ欠けても駄目。だから欠け
ても「怒り星」になつちやうんだろうな。と、勝手に読ん
でみる。面白い。碇星は秋季語だから俳句なんだけど、
内容的には川柳味が満天、じやない満点な感じ（石川聰）

歌を忘れたアカペラは 西沢葉火

～「アカペラは」に続く言葉はなんだろうと考えてしま
いました。あえて曖昧にすることで、読み手に想像をかき
立てることができる良さが「ジュニーカ」にはある気がし
ます。（季川詩音）

山頂にアップルパイが落ちてくる 薩一郎

～山頂だと拾いにいけませぬ（わたなべじゅんこ）

しじるもどろに泥田坊 笛地静恵

～水木しげるの妖怪図鑑などによると、泥田坊は恐ろし
げな妖怪だが、この句の泥田坊には、どこか愛嬌がある。
「どろ」の三連発も強烈。（秋月祐一）

クラッチに挟まつたまま冬を越す 汝田大輝

「クラッチに挟まつたまま冬を越す」。小さい動物か、虫か。色々想像できますね。「なんでこんなところにこんなのがいるのよ!」とびっくりしてしまったときって確かにあります。SNSでバズる(話題になる)あのシーンです。

(季川詩音)

ケルン積む軍手や朝の露しみる 鈴木正巳

「写生句として読めば「ケルン積む」の静かさは魅力的。軍手に喋らせなかつたのも好感。(月波与生)

(ニ)に季語停める車のない体 雷

「(ニ)に季語」が面白い。読み手がそれぞれの季語を入れたらいいのだろう。メタ俳句(川柳でもいいが)的挑発。(月波与生)

枯木に夜がぶらさがつた女を抱く 石原とつき

「女を抱く」で終わる句。無頼でカツコイイが着地がすべて「女を抱く」で済んでしまいそうな感じもする。俗っぽいので使い方が難しい言葉。(月波与生)

ジコハサンするかしないか猫じやらし 秋月祐一

「自己破産ではなくカタカナの「ジコハサン」。身体のあちこちが自分勝手に散らばり出す錯覚を覚えました。漢字の自己破産は深刻なお金の事態ですが、カタカナになって、より自分の存在の危機の度合いが高まつたかのよう。「ジコハサン」の向こうには、バラバラの自分が待つている? (岡村知昭)

なんとなく路面電車にいる苺 季川詩音

「一句のなかに「路面電車」「苺」と言葉の斡旋がおもしろい。わたしはこの「苺」を擬人化して読まず苺そのものとして読んだ。苺が「ある」のではなく「いる」のだ。

しかも「なんとなく」。いい意味で地に足がつかない感覚が心地良い。(蔭一郎)

六人にひとりはネット川柳家 月波与生

～根拠もないのにそう言わると妙に納得してしまう。言われてみればそうなのかもしれない。というか、陰謀論や、偽情報などの拡散はこういうところからはじまるのかかもしれません。根拠もないけれども数字で断言されると納得してしまう。この作品は現代社会への警鐘なのかも。

(季川詩音)

おつさんのおでこが示すバーコード 季川詩音

～バーコードしてませんが、おでこって長くなるんです

よ→ほほ実体験 (宮坂変哲)

～バーコードが示すのはおでこより頭頂部周辺の気がします(問答無用の仕事師にLonging/Loveです。)

褒めるのもセクハラになる世界線 宮坂変哲

～世界線という表現が好きです。どこの分岐でこの世界線になつたのか、別の分岐の先ではセクハラではないのか、想像が膨らみます。(なもわべり)

独り居の秋刀魚綺麗に焼き上がる akao

～魚が綺麗に焼けたときの喜びは本当にすばしいです。でも、独り居だから誰にも自慢できないのが悔しいです。でも独り居だからこそ小さな喜びがより大きく感じるのかもしません。(季川詩音)

カツコいいセリフ強制されるBAR 宮坂変哲

～内藤陳が経営していたバー「深夜+1」を想像させる。チャンドラー・ハメットは名セリフの宝庫だがあれを強制

されるのは苦行だろう。（月波与生）

マジンガーZ乗り捨て大花野 [ATSU]
「巨大ロボットが朽ち果てている花野とは終末を感じさせる絵である。ラピュタではなくマジンガーZを選んだところに男氣を感じる。（月波与生）

余所者はテクノカツトで温かい 空野つみき

「テクノカツト」とは懐かしい言葉と思つていたが、先日NHKラジオで六角精児がテクノポップ特集をやついたのでまだ現役だつたりする。あのヘアスタイルは余所者感あるし。（月波与生）

倉庫に香水の残り香ある張り紙 雷

「ある貼り紙」には何が書かれているのか。職場の人事か、健康診断の日程か。「香水の残り香」漂う倉庫は、居心地よろしくなさそう。貼り紙の内容も、あまり気持ちよくなさそう。まったく残り香も貼り紙も、ぼくの気持ちを滅入らせてくれるよ。でも倉庫の仕事は、まだまだ続く。（岡村知昭）

逢つている盲導犬のせいにして 西沢葉火

「盲導犬はあくまで先導役。自分を抑えて、誘導に徹します。それなのに「犬が行きたがつてさあ」との濡れ衣。恋に焦がれてまわりが見えないふたりなんかほつとけばいいのに、己が役目を果たすべく、逢引の終わりを待つ盲導犬のけなげさときたら。いいんだよ、怒つても。（岡村知昭）

日々とはまるで、不具合がそのままの、未完成な階段だ。
天然石アクセサリー kiki's

～美しいですね。たしかに不具合がそのまであり、階段を登るかのように日々を過ごしています。不具合を直すことなくそのままだからこそ美しいのかもしれません。未完成だからこそ毎日が豊かになっているのかもしれません。

(季川詩音)

仏壇の父母に絶やさぬ今年米 鈴木正巳
～気のせいではなくて、本当に嬉しいんだと思いますよ。米不足と言われてる世の中で、今年のお米をお供えしてくれた。最高の親孝行です。(季川詩音)

ガトリングガンに変身あけび食う 宮坂変哲
～ちょうどしにのつて皮の内側こそいで食べたら一日中口の中がにがかつた。(ShunSaito)

やわらかい墓になつてくルツキズム アイン
～「やわらかい墓になつてくルツキズム」。世の中では、見た目の偏見が話題になることが多く、いずれは死後も、見た目についても噂されるんじやないかと思うときがあります。「あの人はこんな人だからああいうお墓なんだよ」って。想像するだけでも恐ろしいですね。(季川詩音)

転がるか走るか速いほうで行く 涼閑

～子どもの頃を思い出しました。ピクニックとかで、良さげな小さい山みたいなのを見つけてどう行くかみたいな。「負けないからな」と気合が入り速い方を選んで進んでいく。走る人もいれば転がる人もいました。無邪気な気持ちがあるからこそできたことです。(季川詩音)